

座標: 北緯36度22分47.5秒 東経139度47分6.3秒

ウィキペディア

下野国庁跡

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

下野国庁跡（しもつけこくちょうあと）は、栃木県栃木市田村町・宮ノ辺に所在する律令制下の地方国庁跡である。**1982年**（昭和**57年**）**10月12日**に、国の史跡に指定された。

本国庁跡は、田村町の宮目（みやのべ、宮延）神社境内付近である。下野国府跡の発掘調査が**1976年**（昭和**51年**）から始められ、**4年次**の**1979年**（昭和**54年**）に国庁跡が確認された。



前殿（復元）

目次

発掘結果

出土品

下野国府

脚注

参考文献

関連項目

外部リンク

発掘結果

発掘調査から、国庁範囲は一町区画を持ち、周りを掘で囲み、中央に前殿（東西棟）、その後方に正殿（未調査）を配置し、前殿の東・西に長大な南北棟の脇殿を対峙させている四周の各辺の中央に門を設けていた。南門からは幅**9**メートルの大路が南方に向かって敷設されている。南大路である。この大路に面した西側に建物群が堀で囲まれている。官衙施設である。前殿は正面**7**間（**22**メートル）・側面**2**間（**4.8**メートル）の規模である。建て替えられている。



国庁跡全景
中央に前殿（復元）。左右の脇殿跡には藤棚。

こうした建て替えから、大きく4つの時期に分けられる。1期は8世紀前半代^[1]、2期は8世紀後半頃から同末（延暦年間の初め）頃に焼失した^[2]、3期は9世紀代が中心^[3]、4期は10世紀に入って間もない頃まで機能していた^[4]。

出土品

国庁内外から出土した遺物は、県立博物館（宇都宮市）に展示されている。

下野国府

下野国府域全体の発掘調査は未だであるが、東西五町（540メートル）、南北六町（648メートル）程度の広がりがあったと推定されている。

脚注

- ↑ 出土木簡から天平元年（729年）には実務が始められていた。瓦葺きにはなっていなかった。
- ↑ 国庁内の建物が整備されていた時期で、脇殿は掘建柱建物であるが、瓦葺きとなる。
- ↑ 3期の建物とほぼ同位置に建てるが、礎石が使われて入る。
- ↑ 建物規模がやや小さくなっている。

参考文献

- 大金宣亮「下野国庁跡」『図説 日本の史跡 第4巻 古代1』文化庁文化財保護部史跡研究会監修、同朋舎出版、1991年。ISBN 978-4-8104-0927-7。

関連項目

- 国衙
- 郡衙
- 日本古代の地方官制
- 承平天慶の乱 - 下野国府は一時期平将門に占領された。

外部リンク

- 国指定文化財等データベース (http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.asp)（文化庁）

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=下野国庁跡&oldid=72340653>」から取得

最終更新 2019年4月11日 (木) 09:33（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。